

英語力アップ 世界へ飛躍を

世界で活躍する人材の育成を目指す、文部科学省の「スーパーグローバルハイスクール（SGH）」事業の指定校・済々黌高（熊本市中心区黒髪）は、指定を受けた2014年度から、国際的な場での活躍に欠かせない英語技能を高める取り組みなどを続けてきた。最終年度に当たる今年、「5年間の成果は？」。同高を訪ねてみた。

（臼杵大介）

済々黌高 SGH指定最終年

「Hello, ever yone...」（みなさん、こんにちは...）。10月上旬、同高図書部。「SGコース」を選択する2年生約30人が、グループに分かれて英語によるプレゼンテーションの練習をしていた。SGコースは通常の時間、実践英語など国際的な素養を身に付ける授業を受ける。身ぶり手ぶりを交えて情熱的に話す生徒も。プラスティックが環境に及ぼす影響を調べている佐藤武三郎さん（17）は、「普段の授業は受け身になりがちだが、SGコースでは自分で考えて



自ら取り組む研究について、英語でプレゼンテーションを行う済々黌高の生徒ら。熊本市中心区

ディベートで実践力／英検2級以上 3倍超に

学はないといけない。助言を立てて話す能力を身に付けたい」と意気込む。

急速なグローバル化を踏まえ、14年度に始まったSGH事業。済々黌高は国から5年間で計4300万円の助成を受けている。18年度から水俣高（水俣市）も指定校となった。

済々黌高は国際的素養として、①国際感覚②課題設定・解決力③コミュニケーション能力④批判的思考と創造力を掲げた。これらの軸として「読む・聞く・話す・書く」の英語4技能を育成。「即興型」ディベートやプレゼンテーションなどのほか、スピーキングテストも導入して実践力向上を図ってきた。

民間試験を受ける生徒も増え、英検2級以上の取得者は14年度は63人だったが、15年度156人、16年度195人、17年度206人と着実に増えているという。「生徒たちは、大学で求められることを高校の段階で経験する。大学進学後もプラスに働く」とSGH担当の鶴濱正悟教諭（44）。SGコースの生徒はオーストラリアへの研修のほか、JICA九州といった

済々黌高 SGH指定の主な効果

英語検定	進学率	国際的素養	研究発表
英検	2級以上の取得者が14年度63人から、17年度206人に増加	国際化に重点を置く大学への進学者が、全体の2割から4割に増加	「将来留学したり、仕事で国際的に活躍したい」と考える生徒の割合が15年度57%から17年度91%に増加（SGコース）
研究発表	SGコースで取り組んだ研究が、大学の学部・学科の選択に影響したという生徒が25%（17年度卒業生）		

国際機関の訪問も経験する。水俣病や地球温暖化など環境問題を中心とする研究も実践。英語で論文を作成し、成果を発表するなど国際感覚を磨き、世界に向けた視野を広げている。

SGコースの水野理恵子さん（17）。「2年」は「英語に瞬時に対応する力がついてきた。国境や人種を超え、世界をつなぐ仕事があった」。一森聖史さん（16）も「賛否を議論するディベートは刺激的。英語を通して多くの国とつながりたい」と夢を膨らませる。2人とも、将来は海外留学を視野に入れる。

同高によると、「将来留学したり、仕事で国際的に活躍したい」と考える生徒の割合は、SGコース生で15年度は57%だったが、17年度は91%に増加。SGコース以外の生徒でも、10%から45%に増えたという。

鶴山幸樹教頭（53）は「世界で活躍する人材の育成は、『知識を磨き、文明を進む』という本校の三綱領の理念と合致する。SGHの指定が終了しても、教育課程を工夫しながら同様な取り組みを継続したい」と話す。